

藏前正太淺草御藏前森田屋出入の左官也、三升飲、

石屋市兵衛千住掃部宿の入也、萬壽無量杯にて飲、

大門長次新吉原にすめり、水壹升、醤油一升、酢一升、酒一升

茂三馬喰町人也、齡三十

一、綠毛龜を傾盡す、

鮒屋與兵衛千住掃部宿の人也、齡三十四五計、小盞に

天滿屋五郎左衛門千住掃部宿の人也、三四升許飲、

おいしく倉などにて終日のみ鎌

おぶん也、同上、酌取の女

天滿屋みよ女天滿屋五郎左衛門が妻也、萬壽無量杯をかたぶけて醉たる色なし、

菊屋おすみ千住人也、綠毛龜にて飲、

おつた千住の人、鎌倉など

料理人太助終日茶碗などにて飲、はて

會津の旅人河田江島より始て、丹頂鶴をいたるまで、五杯を

龜田鵬齋谷寫山など、此むしろに招がれて、もの見せしとぞ、そのをり千住掃部宿の八兵衛といへるものは、壹分饅頭九十九くひつといへり、この酒戰記は、平秩東作が書つめたりし也、

〔兎園小説十二集〕大酒大食の會

文化十四年丁丑三月廿三日、兩國柳橋萬屋八郎兵衛方にて、大酒大食の會興行、連中の内稀人の分書抜、

酒組

一三升入盃にて三盃